

## 稲川小児童考案 **弁当に湯沢の魅力満載**

### 24日発売メニューー **ジオパークなどに着想**



「もっともっと魅力発見！湯沢スペシャルジオパーク弁当」（右）と「湯沢の魅力伝われ弁当」。児童が育てたコメや野菜が使われている

湯沢市川連町の稲川小学校（佐藤俊介校長、205人）の児童がメニュー考案や、食材提供に携わった2種類の弁当が24日から期間限定で販売される。市内のジオパークについて学んだ成果が盛り込まれており、児童からは「豊かな自然、歴史といった湯沢市の魅力を食べて感じてほしい」といった声があがる。

2種類のうち、「もっともっと魅力発見！湯沢スペシャルジオパーク弁当（1100円）」には、地下のマグマだまりをイメージした肉団子、小安峡の紅葉をヒントに得た彩り豊かなポテトサラダなどを盛り付けた。

「湯沢の魅力伝われ弁当」（777円）は、川原毛地獄の遊歩道の光景から発想したおにぎりなどが入っている。製造と販売は地元のやまりん商店が担う。

同校とやまりん商店は2024年度、児童が育てたコメや野菜を使い、ジオパークにちなんだ弁当を初めて作った。25年度も総合的な学習、生活の授業の一環として食材の栽培に挑戦。1年生はサツマイモ、2年生はナス、3年生はエダマメを育てた。4年生はカボチャ、5年生はコメ、6年生はジャガイモを栽培した。

このほかに4年生はデザートとかけ紙の考案を担当、2種類とも駒形地区のリンゴを入れた。5年生は全体のメニュー構成と宣伝用パンフレットの作成。6年生は弁当の名称選定とPRポスター作りを受け持った。

昨年5月に各食材の苗を植えるなどして秋に収穫、12月に弁当を完成させた。

6年生の柴田陽妃さんは「弁当の名前には、食べて楽しくジオパークについて学んでもらおうという気持ちを込めた」と説明。5年生の石田太一さんは「自然が豊かな自然の魅力を詰め込んだ。食べた人に伝わってほしい」、4年生の新山荘輔さんは「地元の人にも観光で訪れた人にも食べてほしい。湯沢市にたくさんの名物があることを知ってもらいたいと期待する。

やまりん商店の佐藤恭子さん（54）は「子どもたちのアイデアに触れ、ジオパークに関する事柄を多く学んだということが伝わってきた」と笑顔。「食味の良さはもちろん、食べて学べる品になった。子どもたちの発想に協力することができてうれしい」と話した。

弁当の取り扱いは今月24日～3月7日。購入日の2日前までの予約が必要。問い合わせはやまりん商店 ☎0183・42・3509（午前9時～午後6時）（小林智彦）

令和7年2月17日(月)秋田魁新聞より一部抜粋)